

ホソバテンナンショウ *Arisaema angustatum* Franch. et Sav.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 13。温帯性の植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

多年生草本。地下茎は扁球形、上部から多くの根を出す。葉身のある葉は 2 個、第 1 葉の葉鞘は長さ 15~70cm、雲状紋が目立ち、葉身は鳥足状に分かれ、小葉は 5~15 個、葉軸はよく発達し、小葉は長楕円形、先端は鋭尖頭、辺縁は全縁または歯状の細鋸歯がある。花期は 4~5 月、仏炎苞は葉よりやや早く開き、通常葉より高い位置につき、緑色で、筒部は長さ 4~6cm、口辺はやや広く開出して耳状となり、舷部は卵形、長さ 4~7.5cm、先端は鋭尖頭となる。花序は肉穂状、偽雌雄異株で、小型の個体は雄花、大型の個体は雌花をつけ、付属体は細い棒状、先端は直径 1~2.5mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (小林 57107, 1995-6-10)、7 設楽東部 (芹沢 61075, 1992-4-25)。

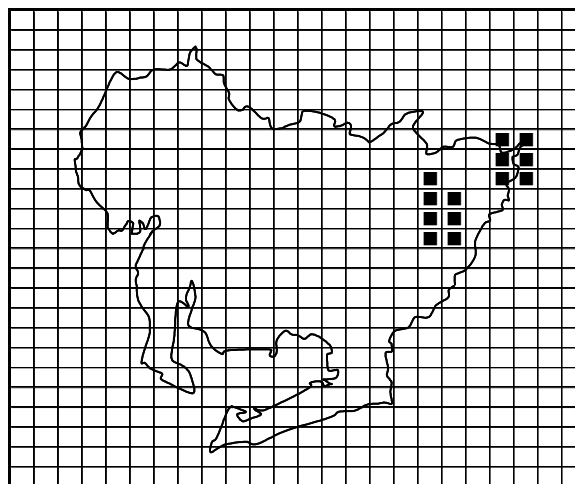
【国内の分布】

本州 (関東地方、中部地方、近畿地方) の主として太平洋側に生育する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

現在のところ 2 カ所で確認されているだけで、どちらも個体数は少ない。森林の伐採により失われるおそれがある。

【保全上の留意点】

生育地の森林を保全することが必要である。

【特記事項】

仏炎苞筒部口辺がやや耳状になり、花序付属体が細いことが特徴である。ホソバテンナンショウと名づけられているが、他種に比べ小葉が特に細いことはない。

【関連文献】

保草本Ⅲp.206, 平草本 I p.136, 平新版 1 p.104, SOS 旧版 p.102.